

群 教 ゼ	G10 - 01
	令 4. 281集
	道 徳

道徳的価値を自分のこととして捉え、 考えを深められる児童の育成

——地域の人材を活用した体験活動等と
関連付けた指導の工夫を通して——

特別研修員 小倉 直美

I 研究テーマ設定の理由

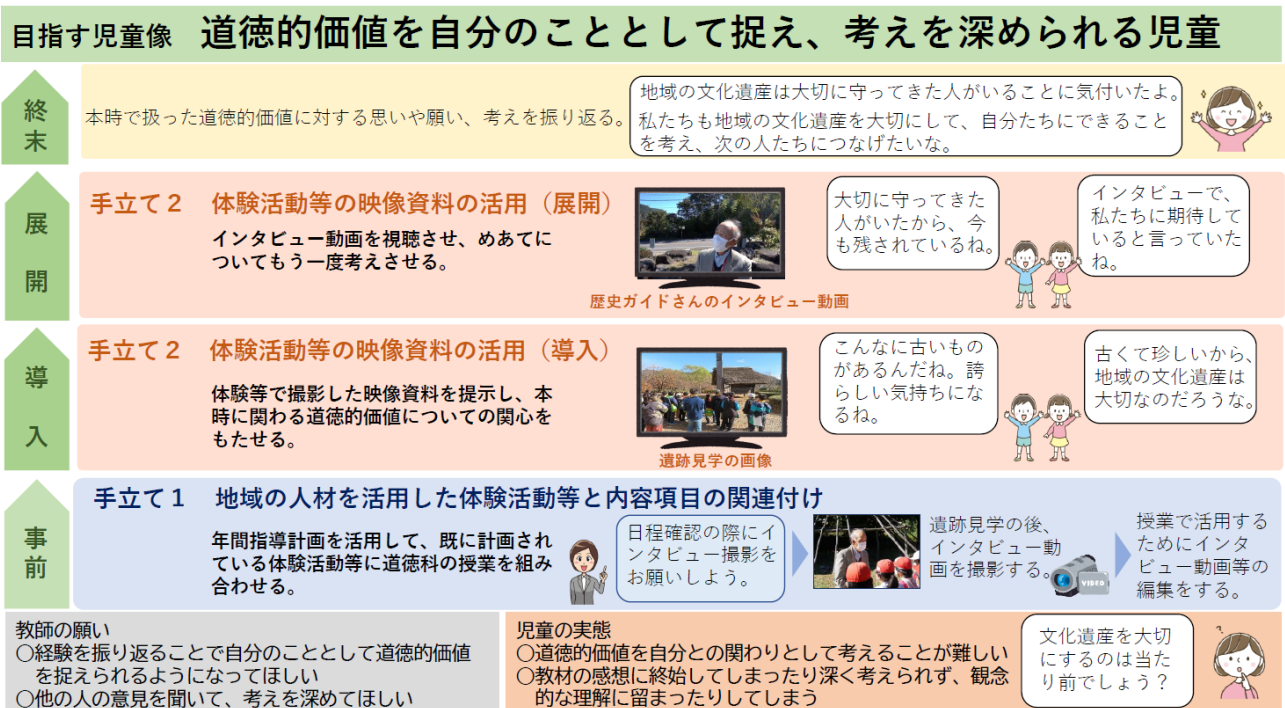
小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編（平成 29 年 7 月）において、第 2 章第 2 節 2（3）では「道徳的価値の理解は、道徳的価値自体を観念的に理解するのではなく、道徳的価値を含んだ事象や自分自身の体験などを通して、そのよさや意義、困難さ、多様さなどを理解することが求められる」とされている。また、第 4 章第 1 節 3（4）では、「集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動などの道徳性を養うための体験活動と道徳科の指導の時期や内容との関連を考慮し」と示され、各教科、体験活動等との関連する指導を工夫することが求められている。

研究協力校の第 6 学年の児童は、道徳科の授業においては、考えたり思いを交流したりすることはできているが、自分のこととして捉えにくい内容項目については、思いや考えをもつことが難しい一面が見られる。そのため登場人物の心情の読み取りや教材の感想に終始してしまったり、深く考えず観念的な理解に留まり、抽象的な発言になったりすることがある。

そこで、各教科での体験活動等や学校行事と道徳科の内容項目を関連付けて指導をすることで、道徳的価値を自分自身のこととして考えやすくなると考えた。そして、体験活動等の際に関わった地域の方に道徳的価値に関わるインタビューを行い、撮影した動画を活用することで、地域の身近な人々の意見に触れ、考えを深めることができると考えた。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

自分のこととして捉えにくい内容項目では、思いや考えをもつことが難しい一面がある児童に対して、体験活動等と関連付けて指導をすれば、体験活動等の中で感じたことを基にして、内容項目について思いや考えをもったり深めたりできると考えた。事前に、体験活動等と内容項目を関連付けて資料を準備し、授業の導入と展開後段において以下の手立てを講じた。

手立て1 地域の人材を活用した体験活動等と内容項目の関連付け

年間指導計画等に基づいた体験活動や学校行事などから、地域の人材が関わるものや、その活用ができそうなものを関連付ければ、児童が道徳的価値について自分のこととして捉え、考えをもちやすくなると思った。また、体験活動等に関わる地域の方に、動画で児童へのメッセージを語る講師として協力を得れば、児童が考えを深めるための資料として活用できると考えた。地域の方との打ち合わせにおいては授業のねらいや概要を共有するとともに、必要に応じてインタビュー動画を撮影し、これを授業で活用することについて了解を得る。

手立て2 体験活動等の映像資料の活用

体験活動等で撮影した映像資料を導入と展開で活用する。導入では体験活動等での写真を提示することで、児童が本時に関わる内容項目を身近なものに感じ、教材に親しみながら関心を高められるようにする。そして、展開後段のめあてについても一度考える場面では、導入と同じ体験活動等で関わった地域の方のインタビュー動画を提示する。児童にとって地域の身近な人々の考えに触れることを通して、更に考えを深めさせることができると考えた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 体験活動等との関連付けは、あらかじめ日程が決まっているものや、これまでも実施されてきた既存の体験活動等を活用したため、負担なくスムーズに準備や計画をすることができた。また、児童の体験活動等に基づいた映像資料を作成し活用したことで、道徳的価値を自分のこととして捉えて考えている記述が見られた。
- 体験活動等の映像資料を授業の導入に活用した部分では、提示された体験活動等の画像から、体験活動等で感じたことや考えたことを想起し、全員が本時で扱う道徳的価値についての考えや問題意識をもつことができていた。
- 「めあてについても一度考える」場面での地域の方のインタビュー動画の視聴では、自分たちへのメッセージということもあり、児童の関心を高めることができた。地域の身近な人々の考えに触れさせることで、「周りの人に期待されている。」「自分たちにできることを考える。」など新たな視点での記述が見られた。児童同士での交流だけでは引き出すことのできない感想や考えが引き出され、道徳的価値に対する考えを深めることができた。

2 課題

- 年度初めに、計画されている地域の人材を活用した体験活動等の予定を基に、道徳科の全体計画や年間指導計画を確認しておき、体験活動等の日程が決まってから主題の配列を考慮した上で修正する必要がある。
- 映像資料の活用では、導入時の体験活動等の画像の提示に時間が掛かってしまい、展開前段の時間を十分に取るができなかった。ねらいに迫るために提示する画像を精選する必要がある。また、展開後段のインタビュー動画については、視聴後に児童が考えたり対話したりする時間を十分確保できるようにするために、ねらいに即して要点を絞り短時間の動画に編集する必要がある。

実践例

- 1 主題名 ほこりある郷土 内容項目 C- (17) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 (第6学年・2学期)

教材名 「天下の名城をよみがえらせる一姫路城」 (出典: 「小学道徳 生きる力6」 日本文教出版)

2 本主題について

(1) ねらいとする道徳的価値について

自分が生まれ育った郷土は、その後の人生を送る上で心のよりどころとなるなど大きな役割を果たし、生きる上での大きな精神的な支えとなるものである。郷土でのさまざまな体験等を通して郷土を愛する心が育まれていくが、郷土から国へと親しみをもちながら視野を広げ、国や郷土を愛する心を持ち、よりよくしていこうとする心情を育成することが大切である。本時では、長い歴史を通じて培われ、受け継がれてきた風俗、習慣、芸術等を大切に、それらを次代に引き継ぎ、発展させていこうとする心情を育てたい。

(2) 児童の実態について

児童たちは、これまでに地域のお祭りに参加するなど地域に愛着をもって生活している様子が伺える。また、これまでの学習や経験を通して、我が国の国土や産業の様子、我が国の発展に尽くした先人の業績や優れた文化遺産にも目を向けられるようになってきている。一方で郷土への関心や尊重する態度については十分であるとは言えない。本実践を通して、更に地域にある文化遺産のことを改めて考える機会とし、大切さを感じたり受け継いだりしようとする態度を育てたいと考えた。

(3) 教材について

本教材は、平成の修理を終えた現在の姫路城を見つめるひろみと祖父の会話で始まる。同世代のひろみが登場することで、感情移入しやすく共感しやすい構成となっている。また、事実に基づいた話であるため、児童は興味をもって読み進めていくであろう。

祖父の語りから姫路城の美しい姿を守り続けた先人の苦労や努力に目を向け、自らも継承していこうと願うようになったひろみの姿を通して、先人が残してくれた郷土や我が国の伝統文化を後世に残すために大切にしようとする気持ちを高めていきたい。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は、ねらいとする道徳的価値である郷土愛について自分の経験を想起し、多様な考えに触れることで自分の考えを深められるようにするために、総合的な学習の時間「月夜野の歴史遺産を探ろう」の遺跡見学と本時を関連付け、以下の手立てを講じた。

手立て1 地域の人材を活用した体験活動等と内容項目の関連付け

総合的な学習の時間「月夜野の歴史遺産を探ろう」での矢瀬公園遺跡の見学と道徳科の内容項目 C- (17) 「伝統と文化の尊重、国や文化を愛する態度」を関連付けた。遺跡見学後に道徳科の授業を実施することとし、地域の人材である歴史ガイドさんには事前の日程確認の連絡をした際に、道徳科の授業のねらいや概要について知らせ、インタビュー撮影と授業での使用の依頼をし、協力を得た。

手立て2 体験活動等の映像資料の活用

総合的な学習の時間「月夜野の歴史遺産を探ろう」で実施した矢瀬公園遺跡の見学時の映像資料を導入の際に電子黒板で提示することで、体験や思いを想起し関心を高められるようにした。展開後段の「めあてについてもう一度考える」場面においては、矢瀬公園遺跡見学でガイドを依頼した地域の方のインタビュー動画を視聴させた。地域の身近な人々であり、見学でもお世話になった方の考えや意見を聞くことで、内容項目や地域の文化遺産への考えを一層深められるようにした。

4 授業の実際

(1) 事前

手立て1 地域の人材を活用した体験活動等と内容項目の関連付け

総合的な学習の時間「月夜野の歴史遺産を探ろう」の矢瀬公園遺跡の見学と、教科書の教材の主題「ほこりある郷土」を関連付けた。児童が遺跡見学の体験を自分との関わりで感じたり考えたりしたことを生かして、道徳的価値を自分のこととして捉え、考えたり深めたりできると考えた。

11月に実施する矢瀬公園遺跡見学の後に道徳科の授業を計画し、地域の方である歴史ガイドさんに、遺跡見学の日程確認をした際に授業のねらいや概要を知らせた。「子供たちへのメッセージ」「地域の文化遺産を受け継ぐことへの思い」という内容でインタビューの依頼をし、道徳科の授業で児童にインタビュー動画を視聴させたいことを伝え、協力を得た。

(2) 本時

手立て2 体験活動等の映像資料の活用（導入）

導入では、事前アンケート「地域で受け継がれているもの、大切にしているもの」の結果を紹介し、分からないと答えた児童が半数以上いたこと確認した。次に、矢瀬公園遺跡見学での画像を電子黒板に提示した。矢瀬公園遺跡内で地域の方に説明を受けている様子や見学した住居跡の画像を見せ、自分たちの地域にも文化遺産があり、誇れるものであったことを想起させることによって、本時で扱う道徳的価値について関心を高められるようにした

(図1)。事前アンケートでは地域で自慢に思うことが分からないと答えていた児童が、遺跡見学後に自慢に思えるようになったと発言していた。

受け継がれている郷土の伝統や文化をこれからも大切にしていくことが必要であることを再確認し、本時のめあて「地域の文化遺産が大切に受け継がれているのはなぜでしょう。」を設定した。初発の児童の考えは、「珍しいから受け継がれてきた。」「古いから大切だと思う。」「ここにしかないからだろう。」など矢瀬公園遺跡見学で感じた遺跡そのものの価値を捉えていた。

その後、教科書の教材の朗読CDによる範読を行った。

教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する場面では、どのような人たちが姫路城に関わったのかを問い掛け、多くの人に関わっていることが理解できるよう板書で整理した。中心発問では「和田さんと加藤さん、ひろみさん、祖父はそれぞれ姫路城にどのような思いをもっていましたか。」と問い掛け、ペアで話し合い活動を行った(図2)。それぞれ「絶対にあきらめないで修理するぞ。」「修理に関われて誇らしい。」「姫路城を大切にしたい。」等の意見が出された。

手立て2 体験活動等の映像資料の活用（展開）

展開後段の道徳的価値に対する多様な意見を知り、「学習のめあてについてもう一度考える」場面では、「地域の文化遺産が大切に受け継がれてきたのはなぜでしょう。」について考えさせた。その際に歴史ガイドさんの言葉を手掛かりにして考えられるよう、インタビュー動画を視聴させた(図3)。「地域の人たちが大切にしたいと思ってきたから受け継がれてきた。」「次の世代の人たちに受け継ぐため。」「歴史があつて、いろいろな人たちが残したいと思ってきたから。」



図1 映像資料を見ている児童の様子



図2 ペアで話し合いをしている児童の様子



図3 インタビュー動画を視聴している様子

などの記述が見られ、地域の文化遺産は、多くの人々が関わって大切に守ってきたことや、その思いに気付くことができました。「昔の人たちが今までずっと守り続けてきたものを自分たちの代でなくすわけにいかないと思う。」と、自分のことと関わらせて考えた児童もいた。

学習を振り返る場面では、本時で学習したことを「今まで」「道徳の学習をして」「これから」の視点で振り返ることとした。「大事なものだと思っていたけど、今日勉強して歴史だけでなく、そこにいろいろな人が関わっていたことを感じた。今度からそういう目で文化遺産を見ていきたい。」「たくさんの人たちが大切に思っていて守ってきたものだということを他の人にも教えたい。」などの記述が見られ、遺跡そのものの価値で地域の文化遺産を考えていた児童たちは、たくさんの人が関わって大切にされてきたことに気付いたり、自分も文化遺産を大切にしようと考えたりするなど、道徳的価値を自分のこととして捉えた上で、今までの自分を振り返ったりこれからどうしていきたいかを考えたりすることができていた（表1）。

表1 抽出児童の考えの変化

	総合的な学習の時間での 遺跡見学後の感想	導入でのめあて に対する考え	めあてについてもう一度 考える場面での考え	本時の振り返り
児童 A	昔の生活や文化が分かる のはすごいことだから、 矢瀬遺跡を自慢に思う。	歴史があるから大切にさ れている。	昔の人が大切にしてきた ものだから、自分も大切 にしようと思えた。	文化遺産だから大切だと考えて いたけど、たくさんの人たちが 大切に思っていて来たものだから自 分も大切にしたい。
児童 B	矢瀬遺跡が発見された時 に、すごく人が来たのだ から価値があると思う。	ここにしかない、珍しい ものだから大切だと思 う。	いろいろな人たちが残そ うとした気持ちがあった から受け継がれている。	受け継ごうとか、地域のも のという意識がなかったけ ど、これからは地域のもの を大切にしたい。

5 考察

導入での「道徳的価値について問題意識をもたせる」場面では、体験活動等の映像資料を活用して、本時のめあてについて考えさせた。体験活動等の画像を見て「矢瀬公園遺跡はここにしかなくて珍しいから。」「古いから大切にされている。」と自分の体験を想起して全員が考えをもつことができた。

展開後段での「めあてについてもう一度考える」場面では、体験活動等の映像資料を活用し、地域の人材である歴史ガイドさんのインタビュー動画を提示した。身近な人々の自分たちへメッセージに触れることができ、児童が自分自身に関わることとして考えることにつながった。地域の文化遺産である矢瀬公園も、姫路城と同じように大切に受け継がれてきたことや、多くの人々が関わって残そうとしてきたことについての記述が見られた。振り返りでは、地域の文化遺産に対して「受け継ごうと考えことはなかったけど、自分たちも受け継いでいきたい。」「次の人にも伝えたい。」などこれまでを振り返ったり地域の方の言葉を受けて考えたりさせることができた。

一方で、導入の提示資料が精選できておらず、資料の提示に時間が掛かってしまった。展開後段のインタビュー動画の提示においても、多くの情報を提示するのではなく、ねらいに即して編集するなど、効果的な提示の仕方を検討しておく必要がある。

また、話を深める手立てとして、ICTを活用し児童の意見を共有するなど、短時間でより多くの考えに触れるための工夫を行うことにより、全体での交流が効果的にできたのではないかと考える。今後はICTの活用に加えて、自分のこととして考えた後に、共感した友達の考えはどのようなものか、自分にはなかった新たな考えはどのようなものか、など視点をもたせた交流の工夫をしていきたい。